

# 平成八年度 陵墓関係調査概要

## 陵墓調査室

陵墓調査室では、古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内にある陵墓の保全・整備のために緊要な土木工事を実施するに当たって、施工区域・箇所の遺構・遺物の有無を確認し、工法決定に資するために事前調査・立会調査を行っている。平成八年度も各陵墓監区事務所と協力して次の区域・箇所において調査を行った。

### 〔事前調査〕

一、武藏陵墓地（東京都八王子市長房町）内埋蔵文化財調査（多摩監区四月）

担当 德田誠志

二、仲哀天皇惠我長野西陵（大阪府藤井寺市藤井寺四丁目）整備工事区域の事前調査（古市監区 十一月）

担当 福尾正彦・德田誠志・清喜裕二・浅井良寛・井上 武・川添悟・寺本公通

三、磐園陵墓参考地（奈良県大和高田市大字築山）堆積土除去工事区域

の事前調査（畝傍監区 十月）

担当 德田誠志・清喜裕二・小林利雄・野上修也・芳村弘士・古川稔也

### 〔立会調査〕

四、後深草天皇ほか深草北陵（京都市伏見区深草坊町）側溝改修工事箇所の立会調査（桃山監区 六月）

担当 森 政久

五、桓武天皇皇后乙牟漏高畠陵（京都府向日市寺戸町大牧）下水道管埋設工事箇所の立会調査（桃山監区 七月）

担当 北野聖史

六、後村上天皇檜尾陵（大阪府河内長野市寺元 觀心寺内）参道法面崩落防止工事箇所の立会調査（古市監区 七月）

担当 真鍋慶一・浅井良寛

七、花山天皇紙屋川上陵（京都市北区衣笠北高橋町）駐車場整備工事箇所の立会調査（月輪監区 七月・八月）

担当 森本芳博・宮田幸一・西村正次

八、贈皇太后朝子般舟院陵（京都市上京区般舟院前町）見張所改築、給

排水管・電線埋設その他工事箇所の立会調査（月輪監区 八・十・十

二月）

担当 德田誠志・曾田誠二・宮田幸一・森本芳博

九、嵯峨天皇皇后嘉智子嵯峨陵（京都市右京区嵯峨鳥居本深谷町）鳥居

改築工事箇所の立会調査（桃山監区 八・九月）

担当 坂本博史・畠 隆夫

一〇、繼体天皇三嶋藍野陵（大阪府茨木市太田三丁目）の下水道管理設工

事箇所の立会調査（桃山監区 九・十月）

担当 徳田誠志・瀬尾義弘・森岡正則・上村雅洋

一一、光仁天皇原東陵（奈良県奈良市日笠町）見張所改築、水道管・電

線埋設工事箇所の立会調査（敵傍監区 九・十月）

担当 清喜裕一・小走泰弘・山本昌弘

一二、贈皇太后豫姫吉隱陵（奈良県宇陀郡榛原町大字角柄）鳥居改築工事

箇所の立会調査（敵傍監区 九月）

担当 中村直嗣・西村寛治

一三、冷泉天皇皇后昌子内親王岩倉陵（京都市左京区岩倉上蔵町）鳥居改

築工事箇所の立会調査（月輪監区 九・十月）

担当 枝江嘉則・高橋秀明

一四、昭憲皇太后伏見桃山東陵（京都市伏見区桃山町古城山）第一鳥居改

築工事箇所の立会調査（桃山監区 十一・一月）

担当 山田昭彦

一五、後村上天皇檜尾陵（大阪府河内長野市寺元 観心寺内）電線引込工

事箇所の立会調査（古市監区 十二月）

担当 浅井良寛

一六、宣化天皇身狹桃花鳥坂上陵（奈良県橿原市西本郷町）樋門接続桟漏水

防止工事箇所の立会調査（敵傍監区 十二・一月）

担当 松尾 浩・本多 均

一七、五十狭城入彦皇子墓（愛知県岡崎市西本郷町）擬木柵取設工事箇所

の立会調査（敵傍監区 一月）

担当 徳田誠志・土屋宣彦

一八、反正天皇百舌鳥原北陵（大阪府堺市北三国ヶ丘町一丁）見張所改築、

電線埋設工事箇所の立会調査（古市監区 一月）

担当 清喜裕一・柴原博一・川添 悟

一九、成務天皇狭城盾池後陵（奈良県奈良市山陵町）整備工事区域の立

会調査（敵傍監区 十一・三月）

担当 福尾正彦・徳田 武・池西良和・鎌田幹史

二〇、履中天皇百舌鳥耳原南陵（大阪府堺市石津ヶ丘）隣接道路改良補償

工事に伴う立会調査（古市監区 一・三月）

担当 柴原博一・中西克仁

二一、大碓命墓（愛知県豊田市猿投町 猿投神社内）階段改修工事箇所の

立会調査（敵傍監区 二・三月）

担当 徳田誠志・林 信吾・安藤 勇（豊田市教育委員会）

三、泉山陵墓地飛地い号（京都市東山区今熊野泉山町 泉涌寺内）裏参道整備工事箇所の立会調査（月輪監区 二・三月）

担当 篠崎秀雄・岩槻知樹

三、稚高依姫尊墓（東京都文京区大塚五丁目 豊島岡墓地内）鳥居改築工事箇所の立会調査（多摩監区 二月）

担当 福尾正彦・清喜裕二

四、神功皇后狭城盾列池上陵（奈良県奈良市山陵町）樋門改修工事箇所の立会調査（畝傍監区 三月）

担当 藤井良章・山本明利

五、清寧天皇河内坂門原陵（大阪府羽曳野市西浦六丁目）樋門改修その他工事箇所の立会調査（古市監区 三月）

担当 福尾正彦・真鍋慶一・井上 武

事前調査三件のうち、一は、平成七年度から継続して行つたもので、本誌前号で触れたとおり前年度分を含めて計六八三平方メートルを発掘し、平安時代の堅穴住居一、繩文時代の土壙（落穴）一、時期不明の炉穴一、同土壙五などを検出した。整理が終わり次第、報告する予定である。二・三については後掲報文に詳述する。

立会調査のうち、見張所改築工事に伴う八・一一・一八、特別營繕工事に伴う一九、陪塚の横を掘削する一〇、遠隔地にあるなど監区事務所職員の立会調査が困難な一七・二一・二三、原初の外堤がかかるかもし

れない二五の九件は、当調査室員も参加して調査したもので、一三・二を除いて報文を後に掲げる。このほかの調査は、以下のとおりで、いずれの箇所からも遺構・遺物は検出されなかつたので、予定通り施工した。

四、掘削地全域が、陵地内の石積みと隣地の住宅基礎の取設によつて搅乱されたあと、埋め戻された盛土と推測された。

五、掘削範囲は、既設水道管理設等による搅乱層と、この下は固い赤褐色粘質土で、地山と思われる。

六、表土の下は、花崗岩のバイラン土のようで、地山と考えられる。

七、掘削範囲内の地層は、上から表土層・黒色砂層・褐色粘質土層・黒褐色土層で、最下層は旧表土のようであるから、その上は盛土と考えられる。

九・三・三、在来鳥居基礎部の再発掘であり、大部分がその埋戻土であつたが、床面の一部に地山と考えられる茶褐色土が観察された。

三・四、既設コンクリート基礎を再用したので、掘削は、基礎上の埋め戻し土の範囲内であった。

一五、表土の下は、小土堤の盛土、その下が六と同じ花崗岩のバイラン土のようで、地山と考えられる。

一六、表土の下は上下二層に分かれ、下層の黄褐色粘質土は築堤時の盛土、上層の灰褐色粘質土はその後の小土堤の盛土と考えられる。

一〇、表土下には、暗茶褐色粘質土層、その下に灰褐色粘質土層、一部では両層の間に茶褐色粘質土層が介在する。灰褐色粘質土層は、きわめ

て緻密で地山の可能性が大きい。

三、掘削範囲は、すべてこの付近に特有な淡赤褐色シルト質の山土。

また、平成八年度においては、次の調査も実施した。

#### 〔墳丘調査〕

墳丘調査は諸種の事情で滞りがちであったが、仁徳天皇百舌鳥耳原中陵後円部の残りがよい部分のエレベーションをとった。

#### 〔石塔等の写真測量〕

石塔等の写真測量は、平成八年度から始めた新規事業である。堂塔式の陵墓等は、五二三基を数え、うち二七九基の石塔については昭和十三年から十八年にかけて能勢丑三氏らに実測を依頼して図面が完成している。この事業は、その残りの石塔を中心に年次計画に沿って地上写真測量による実測図を作製するものである。初年度は、次の石塔を実測した。

- 一、高倉天皇皇后徳子大原陵の石造五輪塔（京都市左京区大原草生町寂光院後。総高〇・八五メートル）
- 二、後花園天皇分骨所の石造宝篋印塔（京都市上京区般舟院前町 般舟院陵内。総高一・三三メートル）
- 三、後土御門天皇分骨所の石造宝篋印塔（同所。総高一・二五メートル）

#### 〔近衛天皇安樂寿院南陵内の仏像調査〕

同陵の多宝塔内に安置されている阿弥陀如来座像及び大日如来座像の保存状態、様式学上の調査及び写真撮影を、京都国立博物館の資料調査研究室長伊東史朗氏に依頼して、十月十七日に実施した。この調査結果については、本誌に掲載してあるので、参照されたい。

#### 恵我長野西陵整備工事区域の調査

大阪府の河内平野の大和川と石川の合流地点の西側には、よく発達した段丘地形が認められる。この段丘面を利用して大小様々な古墳が展開しており、古市古墳群と呼ばれている。仲哀天皇の恵我長野西陵は、その西端付近に位置する墳長一四〇メートルを超える前方後円墳である。

主軸をほぼ南北に添え、幅五〇メートル以上の幅広の濠に囲まれている。墳丘部は等高線が大きく乱れており、本来の形状をうかがい知ることは難しい。現状では後円部東側の標高三七メートル付近に平坦面が認められ、以前崩落した西側部分（今回の第33トレンチ付近、本誌第三六号参照）の東端で埴輪列が確認されていることを考慮すると、当該レベル付近に一段目のテラス面を求めることが可能であろう。また、東側では標高四〇メートル前後にも幅広の平坦面が存在する。傍証はないが、二段目のテラス面に対応することも考えられよう。このように考えるとが許されるならば、四〇メートルの標高で後円部側では裾部まで二〇メートルに満たないので対し、前方部のとりわけ正面部では二五メートル